

令和7年9月25日

株式会社リブルに対する日本政策金融公庫との協調融資について ～ 水産ベンチャーの輸出拡大を後押し ～

トモニホールディングスグループの徳島大正銀行と、日本政策金融公庫（略称：日本公庫） 徳島支店農林水産事業は、牡蠣養殖・スマート養殖事業を行う株式会社リブル（徳島県海部郡、代表取締役：早川尚吾・岩本健輔）に対し、東南アジアへの輸出拡大を見据えた設備投資資金について協調融資を実施しましたので、お知らせいたします。

株式会社リブルは、牡蠣養殖から日本の水産業の改革に取り組む水産ベンチャー企業です。東南アジアへの輸出本格化に向けて、浄化装置・冷凍設備等を導入するため、同社と情報・意見交換を行い、同社のこれまでの経営実績や将来ビジョン、事業実施に伴う地域活性化への貢献等を評価して、設備導入等に必要な資金を協調して支援しました。

今回、大分漁場での生産基盤の強化によって、輸出先の需要拡大に対応でき、令和9年度までに年間20,000キロの牡蠣の輸出を見込んでいます。

徳島大正銀行と日本公庫は、今後も連携し、お客さまの経営発展に向けた支援を通じて、地域活性化に貢献できるよう努めてまいります。

記

1. 企業概要

- (1) 企業名：株式会社リブル（代表取締役：早川尚吾・岩本健輔）
- (2) 所在地：徳島県海部郡海陽町
- (3) 事業内容：牡蠣養殖産業

○ 牡蠣のスマート養殖を推進する企業

株式会社リブルは平成30年に設立、「世界一おもしろい水産業へ」をコンセプトに掲げ、牡蠣養殖から日本の水産業の改革に取り組む水産ベンチャー企業です。

牡蠣の養殖を柱に、年中出荷に対応できる産卵しない牡蠣（三倍体）の種苗生産から、成品の販売や技術の見える化（スマート養殖）まで一気通貫で取り組む、国内でも稀有な企業です。

○ 東南アジアへの輸出本格化に取り組む

同社はこれまでの輸出経験や市場調査等を通じ、殻付きの牡蠣の需要が高いことに着目し、東南アジアへの輸出本格化を決意。同社は、「殻付きのまま輸出できる」というメリットを生かすため、浄化装置・冷凍設備等を導入することにしました。

そこで、「農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律」に基づき「輸出事業計画」を作成、農林水産大臣から認定を受けました。

以 上